

＜白金標準先物、底値を固める時間帯へ＞



(出所：オアシス)

トヨタ自動車は、東南アジアで新型コロナ・ウイルスの感染拡大を受けた自動車半導体のサプライチェーンの崩壊を受け、9月の国内外における生産調整で36万台の減少を発表している。特に白金標準先物は、トヨタショックを受けて一時3382円まで下値を試しているが、年間生産台数930万台の36万台であり、全体から見ても3%程度の影響である。特に白金触媒需要が多い欧州で40000台の減少であり、ディーゼル車の割合は10%であるため欧州だけで考えても4000台程度である。

特に2015年9月のWVの排ガス規制の偽装データー問題でも3800円から一時3475円まで下値を試したが、今回同様に北米市場のディーゼル車の割合が4%未満であり、大きな影響を受けないことから10月には3800円を超える値動きを見せている。そのため今回の下落でも目先下値を試した可能性は高く、戻り高値3645円に向けた買い戻しの動きが予想される。

(2021年8月22日記載)

＜テクニカル＞

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDはMACDの切り上げでシグナルとの乖離が縮小し、強気のサインであるクロスが発生する可能性が高い。またRCIは短期が下げながら長期が下げ止まった状態であり、短期が反転を示す可能性も高く10日移動平均線が位置する3550円を超える値動きが予想される。

NYMEX 指定倉庫在庫（トロイオンス）：552863（前週比-2957）

世界プラチナETF残高（トン）：74.71（前週比-0.02）